

# 畑作の部

畑作部（長沼町）

## I 気象概況

平成9年9月から平成10年10月までの概況は次のとおりである。

平成9年

9月：平均気温は上旬が平年並、中、下旬は低かった。降水量は上、中旬が少なかった。日照時間は上旬がやや多かった。

10月：平均気温は1か月を通じて低かった。降水量は上旬が多かった。日照時間は上、中旬が少なく下旬が平年並であった。初霜は10月8日で、平年より13日早かった。

11月：平均気温は上旬が平年並、中、下旬が高かった。降水量は上旬がやや少なく下旬が多かった。日照時間は平年並であった。

12月：平均気温は上旬が低く、中旬が高く、下旬がやや低かった。降水量は上旬がやや多く、中、下旬は少なかった。日照時間は上、中旬が平年並、下旬はやや多かった。根雪始は平年より3日遅い12月10日であった。

平成10年

1月：平均気温は1か月を通じて低かった。降水量は中旬がやや多かった。日照時間は中旬が少なかった。

2月：平均気温は1か月を通じて低かった。降水量は中、下旬は少なかった。日照時間は上旬がやや少なく中、下旬がやや多かった。

3月：平均気温は上旬がやや高く、下旬は高かった。降水量は中旬が多く下旬が少なかった。日照時間は平年並であった。

4月：平均気温は上旬がやや高く、中、下旬が高かった。降水量は上旬と下旬が少なかった。日照時間は上旬が多かった。根雪終は4月3日で、平年並であった。

5月：平均気温は上、中旬が高く、下旬もやや高かった。降水量は上旬が多く、中、下旬は少なかった。日照時間は中旬が平年並、上、下旬はやや多かった。

6月：平均気温は上旬が低かった。降水量は中、下旬が多かった。日照時間は中旬が少なく、上、下旬はやや多かった。

7月：平均気温は上旬が高く、中旬は低かった。降水量は上、下旬が多く、中旬が少なかった。日照時間は上、下旬が少なく、中旬が多かった。

8月：平均気温は上旬が低く、中、下旬は平年並であった。降水量は上旬が少なく、中、下旬はやや多かった。日照時間は上旬が平年並、中、下旬は少なかった。

9月：平均気温は1か月を通じて高かった。降水量は上旬が少なく、中旬が多く、下旬が平年並であった。日照時間は上、中旬がやや多く、下旬が平年並であった。

10月：平均気温は中、下旬が高かった。降水量は上、下旬が少なく、中旬はやや多かった。日照時間は下旬がやや多かった。初霜は10月中には観測されなかった。

以上、農耕期間（4月～10月）の気象を要約すると、気温は、積算平均気温が3,161℃で平年より110℃高かった。降水量は743mmで平年より6mm多かった。日照時間は989時間で平年より99時間（平年対比111%）多かった。

## 季節表

年次	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪 期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩 霜 (年.月.日)	初 霜 (年.月.日)	無霜 期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H 9.12.10	H10. 4. 3	114	H10 4. 1	H10 4.20	H10. 5.11	H10.11. 2	175	H10.11. 5
平年	12. 7	4. 2	115	4.14	4.20	5. 1	10.23	175	10.23
比較	3	1	△ 1	△ 13	0	10	9	0	12

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す。

## 農耕期間の積算値

項目 期間		平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
4～ 10月	本年	3,161	4,084	2,340	743	989
	平年	3,051	3,995	2,222	737	890
	比較	110	89	117	6	99
5～ 9月	本年	2,573	3,192	2,034	607	648
	平年	2,514	3,182	1,960	521	609
	比較	59	10	74	86	39

注) 平年値は過去10年間の平均。△は減を示す

## II. 作 況

### 1. 秋播小麦 作況：やや良

事由：播種は平年より3日早かった。越冬前の生育はほぼ平年並で、根雪始は12月10日、供試圃場の融雪期は3月26日（融雪剤散布）で積雪期間は106日であった。雪腐病は褐色小粒菌核病の発生が主体で、発病程度は軽微であった。融雪後5月中旬まで気温が高く推移し生育ステージが早まった。5月下旬は日照時間がやや少なく、6月上旬は低温に推移したため生育はやや緩慢となったものの、出穂期は平年より6～8日早かった。

しかしながら、6月下旬以降日照時間が平年より少なく推移したため、成熟期は平年よりも1日早くなるにとどまった。稈長は平年よりもやや短く、穂長は平年並かやや短かった。穂数は「チホクコムギ」が平年並だが、その他は平年よりも多かった。

登熟期間が長かったにもかかわらず、6月下旬以降の日照時間が少なかったことから、穂数が多かった「ホロシリコムギ」「タクネコムギ」「ホクシン」では千粒重が平年を下回った。子実重は「ホロシリコムギ」が平年対比98%と平年並であったが、「タクネコムギ」「ホクシン」は穂数が多かったことから、それぞれ平年対比112%、106%となった。一方、「チホクコムギ」は穂数は平年並であったが千粒重が平年を僅かに上回ったことから平年対比105%であった。リットル重は平年並から平年をやや下回った。

以上により、本年の作況はやや良である。

品 種 名		ホロシリコムギ			タクネコムギ			チホクコムギ			ホクシン		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(平9.月.日)	9.8	9.11	△3	9.8	9.11	△3	9.8	9.11	△3	9.8	9.11	△3
出芽期	(平9.月.日)	9.20	9.19	1	9.20	9.19	1	9.20	9.19	2	9.20	9.19	1
出穂期	(月.日)	6.4	6.10	△6	5.25	6.2	△8	6.4	6.10	△6	5.30	6.6	△7
成熟期	(月.日)	7.21	7.22	△1	7.15	7.16	△1	7.20	7.21	△1	7.17	7.18	△1
雪腐病	(0:無～5:甚)	0.8	1.0	△0.2	0.6	1.1	△0.5	1.5	1.7	△0.2	0.8	1.0	△0.2
草 丈 (cm)	平9.10月20日	19.7	23.3	△3.6	18.9	24.0	△5.1	19.0	24.5	△5.5	20.2	26.3	△6.1
	5月20日	61.0	47.7	13.3	63.3	48.8	14.5	54.0	45.7	8.3	58.0	45.6	12.7
	6月20日	104	103	1	104	105	△1	95	95	0	96	97	△1
茎 数 (本/㎡)	平9.10月20日	1094	932	162	1149	1087	62	1194	1012	182	1244	1038	206
	5月20日	1085	1287	△98	1287	1247	40	1104	1214	△110	1307	1259	48
	6月20日	649	673	△24	877	804	73	699	725	△26	813	758	55
成熟期 における	稈長 (cm)	95	97	△2	96	98	△1	83	90	△7	87	90	△3
	穂長 (cm)	7.9	8.5	△0.6	7.7	7.7	0.0	6.7	7.3	△0.6	8.0	8.2	△0.2
	穂数 (本/㎡)	596	532	64	805	680	125	597	592	5	715	625	90
子実重 リットル重 千粒重 品質	(kg/10a)	485	497	△12	481	430	112	481	460	21	525	496	29
	(g)	755	756	△1	785	790	△5	718	741	△23	773	784	△11
	(g)	41.4	43.9	△2.5	36.8	37.8	△1.0	38.0	37.7	0.3	36.3	38.3	△2.0
	(等級)	2中	1	—	2上	1	—	2中	1下	—	2上	1下	—
子実重平年対比	(%)	98	100	△2	112	100	12	105	100	5	106	100	6

注) 平年値は前7か年中、平成2年、4年（各収穫年度）を除く5か年平均。なお、「ホクシン」の草丈および茎数の平年値は前4か年の平均。

## 2. 春播小麦 作況：不良

事由：播種は平年より4日早い4月21日に行った。播種後適度の降雨に恵まれ、平年より5日早い5月4日に  
出芽期に達した。6月上旬の低温により生育はやや停滞したものの、出芽が早かったため平年と比べると初期  
生育は若干進み、6月20日の段階では草丈はやや高く、茎数は平年並であった。出穂期は両品種とも平年より  
1～2日早い6月24日であった。栄養生長期間が長かったため、穂数はやや少ないものの稈長および穂長は平  
年を上回っており、生育はやや旺盛であったが、7月上旬の不順な天候のため赤かび病が多発し、特に「ハル  
ユタカ」で著しく罹病した。登熟期間中はやや低温・寡照であったため、成熟期は平年並となった。

収量は、赤かび病の著しい発生と、登熟期間中の日照不足による千粒重の低下により、平年対比74～87%の  
低収となった。特に、赤かび病の被害が大きかった「ハルユタカ」で減収程度が大きかった。品質は、粒の充  
実不足によりリットル重が劣り、等級は被害の少なかった「春のあけぼの」では1等であったが、「ハルユタ  
カ」は落等した。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		ハルユタカ			春のあけぼの		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播 種 期	(月.日)	4.21	4.25	△ 4	4.21	4.25	△ 4
出 芽 期	(月.日)	5. 4	5. 9	△ 5	5. 4	5. 9	△ 5
出 穂 期	(月.日)	6.24	6.26	△ 2	6.24	6.25	△ 1
成 熟 期	(月.日)	8. 4	8. 4	0	8. 8	8. 8	0
6月20日	草丈 (cm)	64	59	5	68	64	4
	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	723	721	2	704	686	18
成 熟 期 に お け る	稈長 (cm)	83	80	3	84	82	2
	穂長 (cm)	9.0	8.6	0.4	9.0	8.3	0.7
	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	434	455	△ 21	433	447	△ 14
子 実 重 リ ッ ト ル 重 千 粒 重 品 質	(kg/10a)	211	284	△ 73	265	303	△ 38
	(g)	716	765	△ 49	766	787	△ 21
	(g)	30.0	38.2	△ 8.2	35.0	39.7	△ 4.7
	(等級)	等外	外上	—	1	2	—
子実重平年対比	(%)	74	100	△ 26	87	100	△ 13

注) 平年値は前7か年中、平成5年、8年を除く5か年平均。

ただし、6月20日の「春のあけぼの」の平年値は欠測の平成3年も除く4か年平均。

### 3. 大豆 作況：やや良

事由：播種期は平年より3日早かった。播種後適度な降水があり、気温も5月下旬は平年並に経過したため出芽期は各品種とも平年より6～9日早かった。その後、6月上・中旬は低温に経過したため生育がやや停滞したが、7月上旬は高温、中旬は多照に経過したため生育が促進され、7月20日の主茎長、主茎節数、分枝数は各品種とも平年値を上回った。各品種の開花期はほぼ平年並であった。7月下旬以降、日照不足のためやや徒長気味の生育となり、8月中旬には「ユウヒメ」と「ユウヅル」に倒伏が発生し、さらに8月28日の集中豪雨および9月16日の台風の影響で著しく倒伏した。9月は気温が高く日照時間も多かったため、成熟期は「ユウヒメ」「ツルムスメ」で平年より8～9日早かった。百粒重は「ツルムスメ」で平年より著しく重かったが、「ユウヒメ」は倒伏の影響で平年並にとどまった。着莢数、一莢内粒数は両品種ともほぼ平年並であった。子実重は「ユウヒメ」が344kg/10aで平年対比104%、品質（検査等級）は倒伏により屑粒率が多いことにより、等外となった。屑粒を除いた調整後子実重は325kg/10aで平年の同子実重（329kg/10a）対比99%であった。「ツルムスメ」の子実重は392kg/10aで同比129%で、大粒化したものの裂皮の発生は少なく品質（検査等級）は平年並であった。

「ユウヅル」には8月以降、ダイズわい化病と茎疫病による立ち枯れの発生が目立ったため病害のない健全な株のみを計測し、9月以降は参考値とした。成熟期における主茎長、主茎節数は平年を上回り、分枝数は平年並であった。成熟期は平年より3日早かった。着莢数、一莢内粒数は平年並であった。百粒重は平年より著しく重く、子実重は379kg/10aで同比111%であった。品質（検査等級）は裂皮の発生が多かったため劣った。

以上により、本年は品種により収量性、品質面の傾向が異なり、「ユウヒメ」の作況は平年並、「ツルムスメ」は良であった。2品種を総合して本年の作況はやや良である。

品 種 名		ユウヒメ			ユウヅル			ツルムスメ		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.18	5.21	△ 3	5.18	5.21	△ 3	5.18	5.21	△ 3
出芽期	(月.日)	5.30	6. 8	△ 9	5.30	6. 7	△ 8	5.30	6. 5	△ 6
開花期	(月.日)	7.24	7.22	2	7.28	7.30	△ 2	7.20	7.21	△ 1
成熟期	(月.日)	9.24	10. 3	△ 9	(10.12)	10.15	(△ 3)	9.23	10. 1	△ 8
主 茎 長 (cm)	6月20日	9.5	10.1	△ 0.6	8.5	8.2	0.3	8.3	11.0	△ 2.7
	7月20日	39.4	32.4	7.0	39.0	28.0	11.0	44.8	33.0	11.8
	8月20日	55.9	50.7	5.2	71.9	63.5	8.4	54.1	47.8	6.3
	9月20日	56.1	52.1	4.0	(70.3)	64.2	( 6.1)	54.0	48.4	5.6
	成熟期	56.2	52.6	3.6	(71.0)	63.5	( 7.5)	53.7	47.2	6.5
主茎節数 (節)	6月20日	3.4	3.2	0.2	3.4	2.7	0.7	3.7	3.2	0.5
	7月20日	9.4	8.7	0.7	10.2	8.1	2.1	10.2	8.8	1.4
	8月20日	13.2	12.1	1.1	15.8	14.4	1.4	12.5	12.0	0.5
	9月20日	13.1	12.6	0.5	(15.9)	14.8	( 1.1)	13.0	12.1	0.9
	成熟期	13.7	12.5	1.2	(15.7)	14.6	( 1.1)	13.6	12.1	1.5
分 枝 数 (本/株)	7月20日	8.4	3.9	4.5	4.9	2.0	2.9	5.5	2.9	2.6
	8月20日	7.9	5.7	2.2	6.0	5.0	1.0	5.0	4.4	0.6
	9月20日	8.3	5.8	2.5	( 6.3)	5.1	( 1.2)	5.7	4.6	1.1
	成熟期	7.2	6.7	0.5	( 6.0)	5.5	( 0.5)	5.5	5.5	0.0
着 莢 数 (莢/株)	9月20日	59.9	56.6	3.3	(62.8)	61.4	( 1.4)	49.4	49.3	0.1
	成熟期	58.2	55.3	2.9	(58.8)	60.9	(△ 2.1)	48.7	50.6	△ 1.9
一莢内粒数	(粒)	1.84	1.91	△0.07	(1.83)	1.83	( 0.00)	2.02	1.91	0.11
子 実 重	(kg/10a)	344	332	12	( 379)	340	( 39)	392	303	89
百 粒 重	(g)	43.4	42.4	1.0	(49.2)	42.1	( 7.1)	49.0	43.7	5.3
屑 粒 率	(%)	5.6	0.9	4.7	( 3.3)	0.9	( 2.4)	0.8	0.8	0.0
品 質	(等級)	等外	2中	—	( 3中)	2下	—	2下	2下	—
子実重平年対比	(%)	104	100	4	( 111)	100	( 11)	129	100	29

注1) 平年値は前7か年中、平成5年、6年を除く5か年平均。

2) 「ユウヅル」の括弧書きは健全個体のみの参考値である。

3) 本年の子実重、百粒重は水分15%換算値である。

#### 4. 小豆 作況：不良

事由：播種期は平年より2日早い5月18日であった。播種後に適度な降水があり気温も5月下旬は平年並に経過したため、出芽期は平年より7日早かった。出芽後の生育は6月上・中旬の不順な天候でやや停滞したが、その後は比較的順調に進展し、開花期は平年より2日早かった。開花後は8月上旬が低温、8月中、下旬が寡照に経過したため、開花終期の着莢が少なく、一莢内粒数、百粒重はほぼ平年並であった。9月に入ってから的好天で平年より4日早く成熟期に達したため、最終的な着莢数は平年を下回った。着莢数の減少により、子実重は平年より34kg/10a少ない216kg/10a、平年対比は86%であった。品質も平年を下回った。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		エリモシヨウズ		
		本 年	平 年	比 較
項 目	年 次			
播種期	(月.日)	5.18	5.20	△ 2
出芽期	(月.日)	6. 2	6. 9	△ 7
開花期	(月.日)	7.23	7.25	△ 2
成熟期	(月.日)	9. 5	9. 9	△ 4
主 茎 長 (cm)	6月20日	5.6	4.1	1.5
	7月20日	15.8	14.5	1.3
	8月20日	37.6	36.5	1.1
	成熟期	36.1	36.3	△ 0.2
主茎節数 (節)	6月20日	1.2	1.5	△ 0.6
	7月20日	7.6	6.9	0.7
	8月20日	11.1	11.8	△ 0.7
	成熟期	11.2	11.3	△ 0.1
分 枝 数 (本/株)	7月20日	1.7	1.9	△ 0.2
	8月20日	2.0	2.9	△ 0.9
	成熟期	1.9	2.7	△ 0.8
着 莢 数 (莢/株)	8月20日	35.2	29.7	5.5
	成熟期	36.3	40.5	△ 4.2
一莢内粒数	(粒)	6.75	6.71	0.04
子 実 重	(kg/10a)	216	250	△ 34
百 粒 重	(g)	12.8	12.5	0.3
屑 粒 率	(%)	1.5	1.6	△ 0.1
品 質	(等級)	3中	2下	—
子実重平年対比	(%)	86	100	△ 14

注) 平年値は前8か年中、平成3年(最豊)、6年(最凶)、8年(茎疫病多発)を除く5か年平均。

## 5. 菜豆 作況：不良

事由：5月中旬が高温で降水量も少なかったことから、播種は平年より2日早い5月21日に行った。その後は5月25日に降雨があり、気温も5月下旬がやや高めに経過したため、出芽期は平年より5日早い6月7日であった。6月下旬以降気温が平年並に経過したことから開花期は平年並の7月16日に迎えた。しかし、6月下旬から7月上旬および下旬の多雨により湿害が発生し、主茎の伸長と分枝の発生が抑制され、生育は著しく停滞した。

湿害により落葉が促進されて成熟期は平年より3日早くなった。開花後8月中旬まではの気温はやや低く、日照時間もやや少なかったことから生育を回復できず成熟期の主茎長及び主茎節数は、平年を大きく下回った。分枝はほとんど発生しなかった。このため着莢数も平年を大きく下回った。一莢内粒数も開花期後にあたる7月下旬の湿害の影響から平年を下回った。登熟期間がやや短く低温傾向に推移したため小粒化が予想されたが、着莢数が著しく少なかったため百粒重はほぼ平年並となった。子実重は66kg/10aで平年対比29%と著しく少なかった。品質は、2中でほぼ平年並であった。

以上により、本年の作況は不良である。

品 種 名		改良早生大福		
		本 年	平 年	比 較
播 種 期	(月. 日)	5. 21	5. 23	△ 2
出 芽 期	(月. 日)	6. 7	6. 12	△ 5
開 花 期	(月. 日)	7. 16	7. 16	0
成 熟 期	(月. 日)	9. 4	9. 7	△ 3
主 茎 長 (cm)	6月20日	12.3	14.5	△ 2.2
	7月20日	153	204	△ 51
	8月20日	177	271	△ 94
	成 熟 期	182	271	△ 89
主茎節数 (節)	7月20日	14.7	15.5	△ 0.8
	8月20日	16.2	21.4	△ 5.2
	成 熟 期	16.2	22.1	△ 5.9
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0.7	2.7	△ 2.0
	8月20日	0.0	3.1	△ 3.1
	成 熟 期	0.1	2.6	△ 2.5
着 莢 数 (莢/株)	8月20日	10.0	33.5	△23.5
	成 熟 期	10.5	34.2	△23.7
一莢内粒数	(粒)	3.36	3.93	△0.57
子 実 重	(kg/10a)	66	224	△ 158
百 粒 重	(g)	66.5	66.1	0.4
屑 粒 率	(%)	2.0	4.9	△ 2.9
品 質	(等級)	2中	2	—
子実重平年対比	(%)	29	100	△ 71

注) 平年値は前10か年中、最多収年の昭和63年と、著しい湿害により生育不良となった平成6年、7年、8年及び上記を除いた中で最低収年の平成4年を除く5か年平均。

6. ばれいしょ 作況：やや良

事由：植付けは平年並の4月30日に行った。植付け後、高温傾向に推移したため、萌芽はやや早まり、「農林1号」は6日、「男爵薯」は4日、それぞれ平年より早く萌芽期に達した。6月上旬の低温により生育はやや停滞し、早生種の「男爵薯」では開花始前後で生育が停止し開花期に至らず、草丈が低いまま平年より4日早い8月19日に枯凋期に達した。一方、中晩生種の「農林1号」では開花期が平年より3日早かった。草丈は平年より高く、生育は旺盛に推移し、平年より1日遅い9月19日に枯凋期に達した。

両品種とも、生育後半の日照不足にもかかわらず、気温がやや低めに経過したため、塊茎の肥大は平年並以上に推移し、「男爵薯」は地上部の生育が小出来であったにもかかわらず、上いも重はほぼ平年並であった。一方、「農林1号」は、生育が旺盛であったため、上いも一個重が重くかついも数を確保し、上いも重で平年対比119%の多収となった。なお、でん粉価は両品種ともほぼ平年並であった。

以上により、本年の作況は品種によって傾向を異にするが、2品種を平均してやや良である。

品 種 名		男 爵 薯			農 林 1 号		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
植 付 期	(月.日)	4.30	4.30	0	4.30	4.30	0
萌 芽 期	(月.日)	5.22	5.26	△ 4	5.20	5.26	△ 6
開 花 期	(月.日)	不達	6.30	—	6.26	6.29	△ 3
枯 凋 期	(月.日)	8.19	8.23	△ 4	9.16	9.15	1
茎 長 (cm)	6月20日	30	31	△ 1	39	32	7
	7月20日	36	40	△ 4	62	55	7
	8月20日	—	—	—	67	57	10
茎 数 (本/株)	6月20日	4.2	4.5	△ 0.3	4.0	4.1	△ 0.1
	7月20日	3.9	4.2	△ 0.3	4.7	4.0	0.7
	8月20日	—	—	—	4.7	4.0	0.7
上いも数	(個/株)	9.0	10.6	△ 1.6	11.2	10.7	0.5
上いも平均一個重	(g)	86	78	8	104	95	9
上いも重	(kg/10a)	3433	3392	41	5162	4337	825
中以上いも重	(kg/10a)	2803	2666	137	4580	3796	784
でん粉価	(%)	15.2	15.3	△ 0.1	16.7	16.6	0.1
でん粉重	(kg/10a)	487	484	3	810	675	135
上いも重平年対比	(%)	101	100	1	119	100	19
中以上いも重	〃 (%)	105	100	5	121	100	21
でん粉重	〃 (%)	101	100	1	120	100	20

注) 平年値は前7か年中、平成4年、6年を除く5か年平均。

「上いも」は20g以上、「中以上いも」は60g以上の塊茎である。

7. てんさい 作況：良

事由：播種は平年より2日早い4月2日、移植は平年より2日早い5月6日に行った。移植後、適度な降雨に恵まれたため活着は良好であった。その後生育は順調に推移し、5月20日には草丈、葉数ともほぼ平年並となった。5月下旬からは、6月上旬の低温を除いて気温は平年並から平年より高く推移したため、6月20日の草丈、葉数は平年をやや上回った。6月下旬以降は、7月上旬の高温を除いて気温は平年並から平年より低く推移し、一時生育の停滞がみられたが生育は比較的良好で、7月20日の草丈・葉数・根周とも平年をやや上回った。

生育中期の8月に入ってから、気温は平年並から平年より低く推移し日照時間も平年よりやや少なかったため、根部の肥大はやや緩慢となったが、8月20日には葉数はほぼ平年並であったが草丈・根周は平年をやや上回った。生育後半の9月は高温・多照が続いたため根部の肥大は良好となり、9月20日には葉数はほぼ平年並であったが草丈・根周は平年を上回った。

収穫期は平年より1日遅い10月13日であった。収穫期の葉数は平年をやや下回ったものの、草丈および根周は平年を上回った。100 a 当り根重は8.88 t で平年対比118%と多収を示したが、根中糖分は気温が高く推移したため15.70%で同93%と平年を下回った。そのため、糖量は1394kgで平年対比109%と平年を大きく上回った。

以上により、本年の作況は良である。

品種名(栽培法)		モノホマレ(移植)		
項目	年次	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	4. 2	4. 4	△ 2
移植期	(月.日)	5. 6	5. 8	△ 2
収穫期	(月.日)	10.13	10.12	1
草丈 (cm)	5月20日	5.6	5.0	0.6
	6月20日	31.5	25.2	6.3
	7月20日	54.0	49.1	5.1
	8月20日	63.9	56.9	7.0
	9月20日	62.3	57.6	4.7
	収穫期	60.6	55.5	5.1
葉数 (枚)	5月20日	2.9	2.9	0.0
	6月20日	11.1	10.4	0.7
	7月20日	25.3	19.4	5.9
	8月20日	23.2	22.9	0.3
	9月20日	26.0	26.3	△ 0.3
	収穫期	22.3	26.3	△ 4.0
根周 (cm)	7月20日	23.0	21.1	1.9
	8月20日	30.4	29.0	1.4
	9月20日	34.9	32.8	2.1
	収穫期	36.8	34.2	2.6
茎葉重	(t/10a)	4.89	3.79	1.10
根重	(t/10a)	8.88	7.54	1.34
根中糖分	(%)	15.70	16.91	△1.21
糖量	(kg/10a)	1394	1275	119
根重平年対比	(%)	118	100	18
根中糖分	" (%)	93	100	△ 7
糖量	" (%)	109	100	9

注) 平年値は前7か年中、平成3年、4年を除く5か年平均。

ただし、草丈、葉数および根周の平年値は欠測の平成5年も除く4か年平均。